

月報岡崎の教育

平成11年度

No. 311～

紙面から

教育随想

「教育雑感」

愛知県立岡崎北高等学校長

渡邊 安祥氏

羅針盤

「主体的な活動のための支援」

書写指導員 高橋由美子

この人に聞く

WAC愛知支部会長

永坂 佳規氏

特集

「平成十一年度学校教育の視点」

ふれあい

「生徒が作る授業」

六ツ美中学校 夏目 弘之

師弟同行

師 元矢作中学校長 河合 洋人

弟 北中学校 石井 洋

フォト・ヒストリー岡崎の教育

「自治会活動」 広幡小学校



4月号

平成11年4月1日

発行/編集
岡崎市教育委員会

今月の学校紹介
～南中学校～



僕たち私たちの力で
できること
まず そこから
そして
明日の地球のために
とにかく始めよう



生徒会主催のSEP活動

「大清掃奉仕活動」

「資源ゴミの回収活動」

みんなで流した汗を

カンボジアへ

グアテマラへ

ベトナムへ

今、地球と仲間を救うとき!

Save the Earth and People!

SEP活動



岡崎市立南中学校

— 教育随想 —



教育雑感

愛知県立岡崎北高等学校長

渡邊安祥



教員となつて三十有余年が過ぎました。いろいろな職場を体験する中で、これが、教師の心がけたい大切な事柄の一つだと実感したものがありません。それは、児童・生徒の発達段階に応じて、心をゆさぶるような場面を設定することです。このことに気付いたのは、愛知教育大学附属高等学校（以下、愛教大附高と略記します）に勤務していた時のことです。

愛教大附高は、昭和六十二年度から韓国へ三泊四日の修学旅行を試行していました。慶州やソウル近辺の文化遺産や民族芸能も見学します。メインは、三日目の午後行われる建国大学教師範大学附属高等学校

（以下、建大附高と略記します）との交流会です。当日は、セレモニー・学芸発表・個人交流の順になされます。学芸発表では、お互いの学校が、合唱・ダンスなど授業や部活動などの成果を発表し合います。愛教大附高は、毎年、全員で行う合唱を中心にしていきます。平成二年度は、全員合唱に向けて三か月前から練習を始め、昼休み時間を中心に、パート別やクラス別の練習を繰り返し、時々総合練習を行いました。ところが、期日が迫ってきて、成果がありません。交流会の意義を考えさせたり、いろいろ啓発を試みたりしましたが、確かな感触がつかぬままの状態で韓国へ出発しました。交流会

の前夜には、ホテルの広間を借りて、最後の調整をしました。発声・ハーモニードれも安心できる状態にはなりません。当日の合唱発表は、建大附高が先でした。三十人前後からなる合唱団の一人一人が真剣に歌う姿は素晴らしく、声の大きさやハーモニードの美しさに圧倒されました。この見事さに刺激されたのか、愛教大附高の発表も、これが本校生徒の合唱なのかと疑う程の見事なできばえでした。声の出方、ハーモニード、フィナーレの盛り上がり方も上々でした。建大附高の校長先生からも賞賛の言葉をいただきました。互いに相手の発表に感激しあつた後でしたので、一対一になって大学校構内の散策をする個人交流も大成功でした。学芸発表という場の持つ雰囲気、生徒一人一人の心をゆさぶり、眠っていた能力を起こしたのだなあと感じ入つたしだいです。

以来、行事の持つ意味を大切にしないで、行事的な面だけで、授業など普通の学校生活の場面で何とかこれができるかと思つていますが、なかなかうまくいきません。これからも模索し続けるつもりです。

（わたなべ やすよし）



主体的な活動のための支援

書写指導員

高橋 由美子

H先生は、今年初めて特殊学級を受け持っている。

「今日は虫当てクイズをした。虫の影が映るから当ててね。」

「あり。」

「みんなで言ってみよう。文字の数だけ手をたたいてね。」

「はち。」「かぶとむし。」

「あれ、このむの字おかしいよ。」
W男がすかさずみつけた。OHPに映し出された影絵から虫の名前を当て、その文字数だけ手をたたきながらみんなで言う。ひらがなで虫の名前が出るのだが、どうもおかしい。「文字の形に気をつけて書こう」の導入である。体験活動あり、自ら学習課題に気づくこともできる。

それからカードに書かれた学習課題を一文ずつ出していき、みんなで声を出して読む。文字に集中させ

ふるさとシリーズ

この人に聞く



W A C 愛知支部会長

永坂 佳規 氏

W A C は高齢化社会をいかに活力ある社会とするかを市民の側から実践研究するため、一九八八年に設立された非営利の会員組織「公益法人長寿社会文化協会」の愛称である「Wonderful Aging Club」の略称である。

永坂さんがW A C 支部を立ち上げようと思ったのは、以前から社会問題に関心が高かったこと、そして、これからの日本における最大の社会問題は、「少子・超高齢化社会問題」であろうこと。更には自分たち「団塊の世代」がその立て役者になる。

ならば市民の側から行動を起こそうと考えられたからである。

W A C は会員相互のボランティアである。ボランティア活動の考え方は専門性を問わず、普通の市民が活動に参加できることを基本とし、

「活動に参加するのは自分の心を豊かにするために相手の欲していることを援助するものであり、あくまで自分のためです。」

と言われる。また、

「ボランティアにありがちな『してあげる・していただく』というよう上下関係はなくし、W A C はサービスを受ける人とする人が同一視線にあることを大切にしています。有償としたのも『おしきせでない・金儲けでない・施しでない』ことがボランティアの基本だからです。」

と相手の立場を理解し、相手の人権やプライバシーを尊重することを大切にされています。

学校でのボランティア活動については、次のように述べられた。

「ボランティアはあくまでも自発性に基づく行動です。子供にはボランティアをやらせるといふ発想はだめです。まして、奉仕が点数化されるなどは言語道断です。他

人の評価から離れたところで自発的に行う活動から、自分を知り他人との関係を発見することに意味があります。まずは先生がボランティアに参加して欲しいですね。教科の学習も同じで、分からないことは教えようがないですから。」

開業歯科医でもある永坂さんは多忙な中でもW A C の会長として活躍されている。それは、迫り来る少子・高齢化社会に対して真剣に考え、W A C のような「助け合いの市民組織」を広げること、市民一人一人が社会に対して実力をつけていかなければとの強い考えに支えられている。

氏 名 ながさか よしき
生年月日 昭和二十四年一月二十三日
住 所 上地三丁目三九一八



するための手だては、とても特殊年度の一年目の先生とは思えない。更に、個々の能力に合わせて、文字カードを並べて虫の名前を作る。

「Y君は同じ文字の上に乗せてね。」

「Mさんは書き順をなぞって待っててね。」

なぞる時には、はみ出さないように、針金文字で浮き上がらせている。確実に正しい筆順で書けるような配慮がしてある。いよいよ虫の名前を書く時にも、一人一人練習方法が違っている。その後、OHPに映し出された友達の文字を見て、

「W君の『か』の字がうまいと思う。」

「W君、すごいね。頑張ったね。Y君も見る目があるね。」

誰の文字から映すかも配慮しなければ人間関係がうまくいかない。しかも、書いた本人だけではなく、意見を言った子供も平等に褒めている。心憎い配慮である。

このように子供たちが主体的に学習に取り組むためには、教師の大きな支援が必要である。

【推薦する専門書】

『新しい学力観に立つ書写の指導計画と実践例』 国土社

【これからの書写学習】

ぎょうせい



学校教育の視点

— 平成11年度 —

二十一世紀が目前に迫ってきた。教育課程審議会においては、二年間の審議を経て昨年七月にその答申がなされた。これを受けた文部省は、幼稚園、小・中学校の学習指導要領を昨年十二月に告示した。幼稚園は平成十二年度から、小・中学校は平成十四年度から完全実施される。

各学校においては、これらのねらいを具体的に日常の学校活動の中でどう実現するか、地域の特徴や児童生徒の実態を的確かつ迅速にとらえながら、考え実践していくことが求められる。

一 基礎・基本の定着を図り、自ら学び自ら考える力を育てる

変化の激しい社会においては、学校時代に知識を覚え込んで、それを社会にまで応用すれば済むということではなくなった。児童生徒自らが考える力自体を育成しなければならぬ。その根底は、何事にも興味をもって、積極的に学んでいこうとすることである。

自ら学び考えることを促せば、当然、失敗もするだろうし、迷いも多くなる。あれこれ試しては自分でそ

の結果をみてみて、具合が悪ければ再び試みる。そのような試行錯誤の過程から、「できた」「なるほど、そうだったのか」と、成就感や新しい体験・認識を繰り返しながら自己実現を図っていく。

「自ら学び、自ら考える力」を確かに身につけていくためには、基礎・基本を繰り返し確実に身につけていくことが必要である。

基礎・基本の習得は、基礎的・基本的内容だけでなく、学習の仕方も含まれる。それらは、児童生徒が生涯にわたり人として成長し続けていく基礎となるものである。そこで、この両面から基礎・基本の内容を明確にし、個性を生かした授業への転換を図らなくてはならない。

二 創意工夫を生かした特色ある教育、特色ある学校づくりを進める

学校の創意工夫は、学校というものの基本的な在り方や考え方に深く根ざしている。すなわち、学校は児童生徒のものであり、児童生徒の居場所であり、確かな知性をはぐくむ場、個性を生かす場、ともに学ぶ場とならなければならない。かけがえ



学校教育に求められているものは、時代を超えて変わらない知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成である。

各学校においては、その学校や地域の実態等に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育を展開し、児童生徒に豊かな人間性や基礎・基本を身に付けさせ、個性を生かし、自ら学び考える「生きる力」を培うことが大切である。

「教育は人なり」

岡崎の教師は、教育者としての使命を自覚し、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を確立し、家庭や地域との連携を図りながら、社会の変化に主体的に対応する岡崎の教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 基礎・基本の定着を図り、自ら学び自ら考える力を育てる。
- 一 創意工夫を生かした特色ある教育、特色ある学校づくりを進める。
- 一 正義感・倫理観や思いやりの心など豊かな人間性や社会性をはぐくむ。

のない存在である児童生徒一人ひとりに、教育として何を留意し、どう働きかければよいかが、学校経営の要諦となる。

各学校が創意工夫を発揮する場合、それをどこに求めるかを十分に吟味することが重要である。その鍵として、地域や学校、そして児童生徒の実態のとらえ方、発想、問題意識が浮かび上がってくる。さらには、それらに対応した教材づくりや児童生徒の活動的な学習の場づくりが考慮されなければならない。

豊かな教育活動を生み出す創意工夫は、現実をみてとる学校・教師の発想の豊かさに由来する。

三 正義感・倫理感や思いやりの心など豊かな人間性や社会性をはぐくむ

本来、人は多くの人とともに生活したり、かわり合いながら、人として成長していくものである。

今日、児童生徒を取り巻く社会環境は大きく変化している。家庭の少子化や核家族化の進行、物質的に豊かな時代などを反映して、さまざまな生活体験に取り組む機会が少なくなり、当然、幼い時に家庭でしつけて

おくべき基本的生活習慣についても、身につけていないという実態がある。

学校ではさまざまな教育活動が展開されるが、児童生徒にとって最も基本的な生活や学習の場が学級である。学級は児童生徒にとって生活のよりどころであり、自己成長の場であればならない。そこでは、いつも教師と児童生徒が明るく仲良く、楽しく安心して様々な活動に取り組むことができるよう、常に所属感や連帯感のある場にしていかなければならない。

このような学級を組織するのは学級担任であるが、家庭と異なる集団生活の意義や重要性を理解し、学級経営が適切に行われていなければならない。

以上、三つの指導の重点にそった教育活動を進めるにあたっては、教師は教育の専門家として、自らの専門分野の指導力の向上に努めることが必要である。と同時に、研修の内容や方法について積極的に見直しを行い、改善を図っていくことが大切である。そのためにも、校長のリーダーシップの下、教職員が一致協力して学校経営にあたっていかなければならない。

ふれあい

生徒が作る授業

六ツ美中学校

夏目 弘之

一年生、木材加工の授業。A子はどうも最近元気がなく、作業が遅れがちであった。市販の板材からの自由設計による作品製作なのだが、なぜか乗り気がしないようなそぶりを見せる。

「ちょっと遅れてるようだけど、どうかしたの。」

「作るものが本当に欲しいものじゃないし、作りたいものもないので。」

と言う。確かに、A子は道具を使うのが得意な方ではなさそうだが、板材から必要性の薄いものを作るという気持ちも重なって、製作品への意欲が半減してしまっただけ。

「何とかしてやらなければ」と思うっていたある日の授業

中、数人の生徒から、倉庫の中にある廃材や廃棄寸前の木製椅子を使って、ベンチやテーブル、プランターなどを作りたい、との要望が出された。そしてなんとその中に、A子の姿があった。

その結果、当初の指導計画は大きく変更することになった。リサイクル作品作りとなつたのだ。A子の生きる場を作りたいたいという思いを込めた変更だ。消極的だったA子は、徐々に意欲を見せ始めた。まだ作品の形もできていないうちから、

「先生、もう校務員の先生にペンキの予約しといたよ。」と、やる気満々。授業は生徒が作るものなのだと改めて実感した。



道法自然

北中学校

石井 洋



先生、二年に一度の同級会で、それぞれ個性に合わせた言葉をしたためた書を、参加者全員に贈られたことをまだ覚えてみえるでしょうか。

「もつと本を読め」と言われ、手渡された書を見ながら苦笑いをしていながら大学教授。「自分を磨くことが大切だ」と言われ、感慨深げに書に見入り、

口かと思えば笑いが出たり、冗談かと思えば真剣であったり、先生得意のパターンです。

何事にも誠実に応えてくださる先生と、回りで笑いの絶えない教え子の姿は、まさに二十八年前の竜中三年一組そのままであり、懐かしく思いました。



ありのままの自分を受け入れられずに苦しむ子たちを見るにつけ、子供との心のパイプ作りと、支え合い、学び合える仲間作りの大切さ、先生の偉大さを痛感しています。

先生からいただいた「道法自然」の言葉を噛み締め、心豊かであらうとしたい生徒の育成をめざして地道に取り組んできたと思います。新たな教えをいただける日を楽しみにお待ち申し上げます。

ほんの少しの「老人力」

元矢作中学校長

河合 洋人

楽しくて、何でも言える同級会に感謝しています。この会の主役は、三名の岡崎の先生で、そのまとめ役が、世話好きで誠実な石井君です。

痛みのひどい教室ではありましたが、温かい雰囲気いっぱいのもよみのある優秀な生徒集団でした。この集団のまとめ役の一人が、今と全く同じの石井君でした。担任はただ、進学指導とわかる学習指導に明け暮れ、余裕のない視野の狭い指導であったと反省しています。

宇宙飛行士グレレンさんも言っていた「老人力」という言葉。ほけ味、味わいを生む力でも申しましようか。この力が、当時、ほんの少しあつたならば、もつと心豊かで、楽しい学級が生まれたのではないかと悔やまれます。

最近、全国的に子ども問題行動が多発しています。子どもと真剣に向き合い、語り合うなかで「老人力」の味が少しあれば、子どもの心は和み、自分を省みる力ができるのではないのでしょうか。

石井君、「道法自然」とともに、人間のほけ味をだしながら、子どもたちのために、心の広い、心の温かい指導を願ってやみません。



◆期待の新任教員 五十五名

平成十一年度岡崎市小中学校新規採用教員は、五十五名（男子十九名、女子三十六名）。
昨年度より二十二名増加

期待の新任教師の氏名と配属は、次のとおりである。

・小学校（三十三名）

六名	山中 俊典
竜美丘	千賀しのぶ
	杉山 雄一
	井上 明美
連尺	吉原 樹
	前寺 優子
広幡	富田 亜生
	荒川 泰世
竜谷	山口 智也
	榎田 恵梨
藤川	天野 朝代
山中	矢田 晃仁
	岡戸 淳

生 平	秦 梨	常磐東	大樹寺	矢作北	矢作北	矢作南	六美中部	六美南部	城南	上地	小豆坂	六美西部	・中学校（二十二名）	甲山	美川	南	竜海	葵	城北	松村 恵里	杉浦 史絵	菅沼有希乃	八木 朋子	佐藤 麻子	神谷 敦仁	石橋知加子	富田 麻美	石田加奈子	小野田 勇	小野田 勇	松原 敦子	岩見 陽	小林 由佳	高橋恵理子	坂根 夏子	森 裕子	山田 紀子	川本 祐二	田中 理恵	伊藤 未浦	丹羽 晴美	都築 久治	森部 千夏	鈴木 大	鈴木 千晶	若林 ゆり	矢口美和子	山本 龍一	村井 美香	福 岡	東 海	六ツ美	矢作北	竜 南	北	六ツ美北	六美北	文部大臣賞	竜谷小学校	第七回「かけがえのない地球を大切に」作文コンクール	最優秀賞	福岡中二年	菅井 沙織	附属中二年	中村 拓也	附属中二年	本多 加奈	附属中三年	酒井 彩圭	作品コンクール	・書道の部	最優秀賞	上地小四年	小林 優一	附属小五年	宇野 勝洋	沢田 聖子	・ポスターの部	最優秀賞	甲山中三年	宮崎 陽平	六北小三年	澤田 直希	甲山中三年	中嶋 明子	上地小四年	辻村 絵美	甲山中三年	竹内 夕陽	甲山中三年	鈴木 英介	稲垣 悦男	・標語の部	優秀賞	北野小四年	壁谷 卓未	北野小一年	和田 昇子	委員 長	小林 義孝	副委員 長	荻野 款司	書記 長	伊藤 友隆	書記次長	青山 静夫	組織部長	大西 和夫	情宣部長	鈴木 康子	教文部長	中野渡善樹	福対部長	石原 真吾	調査部長	杉浦 明	会計委員	天野 孝志	女性部長	鳥居 裕子	青年部長	宇都木靖弘	会計監査	加藤 政幸	会計監査	今枝 武司	平成十一年度岡崎組執行委員
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	----	----	-----	------	------------	----	----	---	----	---	----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-----	-----	-----	-----	---	------	-----	-------	-------	---------------------------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	---------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	---------------



▲全国学校関係環境緑化コンクール小学校の部 文部大臣賞 竜谷小学校

フォト・ヒストリー 岡崎の教育

自治会活動

(昭和6年)



写真提供 広幡小

昭和六年三月、「学校自治會問題」についての話し合いの様子を写したもの。現在の児童会にあたると思われる。服装は学生服、着物、洋服姿が入り混ざっている。議長、副議長、書記が毅然とした態度で会を進行させ、緊張感が感じられる。黒板には、「けんげき遊びはやめませう」「ふところに手を入れないようにしませう」などの文言が当時の児童の生活を感じさせる。黒板上には本校の校訓「質實剛健」の額が掲げられている。右上には乃木希典大将の肖像画が飾られている。

・題 岡崎市長 中根 鎮夫
・タイトルバック 福岡 中 土井 誠 司
・カット 矢作 東小 川村 たくみ



* 帰郷	大佛 次郎	¥1700
毎日新聞社		
* 学校崩壊	河上 亮一	¥1500
草思社		
* 1問に百答	日下 公人	¥1429
PHP		
* 子供がキレル12の現場	芹沢 俊介	¥552
小学館文庫		

* 先生 クオレ編集部編
クオレ編集部 ¥1500

子供にとっていつの世でも「先生」の存在は大きい。それは、未来を切り開く扉の鍵を持っているのが、先生だとさえ言っても過言ではないからだ。

この第1回クオレ公募コンテスト「あのとときの先生」に寄せられた作品にみられる先生の姿は、昔も今も不易なものである。

教師としての生き方を自問するのによい機会となる本である。

「おしきせでない・施してない」ボランティア。WACC会長の永坂先生のお言葉には、実践から導き出された重みがある。福祉に対するこうした考え方を、子供たちとともに汗を流しながら確かめることが、我々に課せられた社会的責務なのかもしれない。

シ
オ
ス
ア

車窓から眺める見慣れた景色がいつもとは違って見え、窓から入ってくる空気がすがすがしい。道路には、桜の花びらや新緑の葉が所どころに舞い落ちていく。春の風が過ぎ青空が広がった朝、光がまぶしく、空気までが新しく感じられる時である。

すつと伸びた背に、自分たちの生活を自らの知恵と努力で改善していこうとする迫力を感じる。

「自治会活動」この言葉には、いささか時代を感じるが、子供の自律を促す活動としてますます多様化し、受け継がれている。その大切さは今も変わらない。

新しい年度がスタートするのに合わせて、月報の表紙もスタイルを一新して。各学校の様子や特色ある取組を写真で紹介していこうというものである。地域の特性を生かした活動や行事、先行研究などを広く発信していく場として、活用されることを期待している。